

国際会議参加報告

第34回国際軍事史学会大会の概要

羽生 光俊

8月31日から9月5日にかけて、イタリアのトリエステにおいて2008年度国際軍事史学会(Congress of the International Commission of Military History)が開催された。同大会の開催は本年度で34回目である。今年のテーマは「軍事紛争と市民」であった。

各報告を拝聴した印象としては、テーマの範囲が非常に広く、扱われた時代もギリシャ時代から現代までと幅があり、多様性に富むものであった。逆にいえば、ギリシャ市民社会から国連PKOまでが扱われており、全体的に拡散している感もあった。

参加者は200名程度であり、ヨーロッパ近隣諸国からの参加が多いように感じた。日本からは、国際軍事史学会の理事である高橋会長(上智大学教授・元戦史部教官)、林前戦史部長、秋谷元図書館長、羽生3佐の4名が参加した。その他、アジア諸国からは韓国から3名(韓国国防部軍史編纂研究所)、中国から5名(中国人民解放軍軍事科学院、内通訳1名)、インドネシアから2名が参加した。なお、インドネシアは今回初参加であり、国際軍事史学会への新規加盟を宣言していた。

本大会はイタリア5軍(陸、海、空、警察軍、財務警察軍)の全面協力のもと開催されていた。また、報告の合間や夜にはレセプションが多く催され、各国の研究者や軍関係者と意見交換をする機会に恵まれた。特に、北欧、地中海沿岸諸国(ギリシャ、キプロス、チュニジア等)、アフリカ等の普段接する機会が乏しい研究者との意見交換は有意義であった。

(防衛研究所戦史部 第2戦史研究室所員)